

植物がストレスを抑えると知っていても企業にとっては取り入れ方や効果がわかりにくい。青山フラワーマーケット運営のパークコーポレーション(東京・港、井上英明社長)など3社は2つのデータを使い、導入を促す。緑視率と呼ぶ人の視界に占める緑の割合や、緑化した後の脈拍などストレス情報をオフィスの設計に生かす。

オフィス緑化 データで促す

従業員のストレス軽減測る



なく緑化も職場環境見直しを検討課題に挙がってくる。6月から営業を始めた新サービスのキーワードは「緑視率」と「生体情報」だ。企業が新サービスを利用する場合、まずパークコーポがオフィス設計の大学の松本博名教授は

花店運営のパークコーポなど 最適な配置を提案

日本建築学会で13年に、緑視率が高いと心理的なリラックス効果も高まる。長崎大学の源城かほら准教授も連携して研究。10~15%の割合が緑視率として最適だとの結果を得ている。新サービスはこの研究を設計に生かしていく。

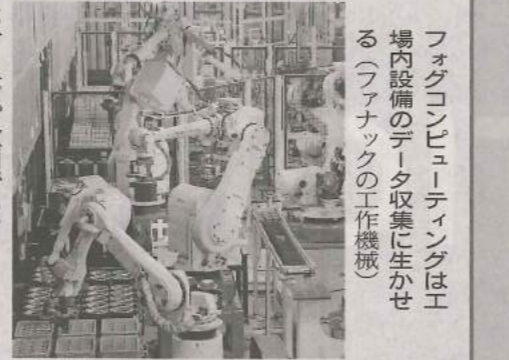
長時間にわたり集中力が必要な職場、クリエイティブ職や企画職など、柔軟な発想が求められる職場での活用をすすめた。パークコーポは13年から、企業向けのオフィス緑化事業を始めた。その延長にある新サービスでは、19年までに累計85件の受注を狙っている。同事業の売上高を今後2年で2倍にしたいという。サービス価格は公表していない。

脈拍チェック サービスでは、アンケートや脈拍によって心理、生理の両面からストレスを指標化し、データとして活用する。オフィスで働く全社員を対象に、緑化の2カ月前にいったん計測する。導入後は月1~2回計測。緑をどのように配置することが個別のオフィスに合った設計になるのか探りながら、最適な再配置を実現していく。脈拍を測るには指を差し込んで計測する専用機器を使う。今後機器の開発を続ける。働く個人にストレスデータを渡す。管理者には、個人を特定できないよう現場の平均データをレポートとして提供する。こうしたデータによって、緑化環境見直しのサイクルを築くことができる。植物にはタマシダ、プリンス、シユガール、ポリシヤス、フィカス、プリムラなどを採用する。プログラマーやシステムエンジニア、事務職など

IoT「雲」から「霧」へ

日本の携帯電話大手3社が、あらゆるモノがネットワークにつながる「IoT」時代に対応した割安通信サービスを開始する。IoTでは、少量で簡易な情報を頻りにやりとりするインフラの重要性が増し、日本のIoT普及に弾みがつく。これを契機にクラウド(雲)に次いで流行しそうなIoT(情報技術)用語が「フオグ(霧)」だ。

という表現を使ったとされる。決まった動きをする機械の作動、温度・湿度の変化のデータを集める機器から得られる簡単なデータを安定してやりとりできるかが重要。IoT通信の整備とフオグは車の両輪といえる。近年のIoT業界では半導体の微細化・高性能化を背景に、末端でデータを処理する「エッジコンピューティング」という言葉が使われてきた。フオグと考え方は似ている。最近「IoTが産業界のキーワードとして浸透するにつれ、フオグがじわり広がっている」とイシヤマは、現在56の企業・大学が加盟。日本企業では富士通、日立製作所、インターネットイニシアティブ(IIT)、伊藤忠テクノソリューションズ、三菱電機、NEC、NTTコミュニケーションズ、C、NTTコムユニオンズ、さくらインターネット、東芝の9社の名前がある。アジア勢では台湾の鴻海(ホンハイ)精密工業や中国の中興通訊(ZTE)のほか、上



海科技術大学などが加わっている。日本でフオグの知名度はまだ低い。企業は歩み始めた。日立は今年5月、シスコとフオグを含めた技術開発で提携すると発表。プロジェクトチームを設置してノウハウを持ち合い、大量のデータを処理できる技術の実用化を目指している。NTTコミュニケーションズを含めたNTTグループは昨年7月、ファナックとの協業を発表。工作機械をネットワークにつないでデータを処理するファナックのシステムに、NTTグループのフオグ技術などを提供する。フオグが賢く効率的に動かすことで製造業の競争力強化につなげる。横河電機は昨年7月、フオグコンピューティングの先端技術を持つ米ベンチャー、フオグホーンシステムズに90万ドル(約1億円)を出資。横河は石油・ガスプラントの制御システムに強みを持つ。フオグ技術を生かす(加藤賢行、栗原健太)

データ処理、現場に近づく

「フオグコンピューティング」という言葉が生まれたのは2015年ごろ。情報を一手に集めてデータを処理する「クラウド」に対し、センサーなど機器がある工場や車、店頭などの情報収集場所に近いところ処理機能を分散する。雲も霧も同じ水蒸気だが、雲は届かないはるか高い所にあるのに対し、霧は身近で手の届く距離にある。フオグコンピューティングではデータの収集・処理、そして実際の作業まで現場に近いところで実行することから霧

三菱地所リアでLPワイドエリ施設すると発が実施した救護担当者TTE回線なることを想日に実施することを検証する実証実験

慶応義塾本原子力研究グループは磁気の流れ出すことにた。磁石やい省エネルギーの実現が期待スピン流熱量は、電さいことが発性メモリスの開発がしている。一方生成には貴重な貴金属、銅の、銅の価な金属はた。

ビル修繕情報 福井コンピュータ

【福井】福井コンピュータのオープン、ビル修繕情報共有プラットフォーム「ビル修繕情報共有プラットフォーム」が、9月20日から販売する。ビルなど大型建築物の効率的な修繕管理のために役立つ。BIMはコンピュータで住宅や建築物の3次元モデルを作成し、設計や施工、維持管理などに活用する。パソコンでモデル上の柱や壁など部材・設備について、素材やメーカー、交換時期など様々なデータが付随情報として閲覧できる。新しい情報共有機能は、同社が販売しているシステム「GLOBE」のオプションとして提供される。年間税別14万円。情報共有機能には別途、同一システムは、同社が販売しているシステム「GLOBE」のオプションとして提供される。